

授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅰ 「健康保持増進・疾病の 予防に向けた看護」	担当講師	桐山裕美子 藤井優美子 田中久美
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>成人は、人生のさまざまな経験や知恵により健康行動をとっている。ほとんどの人は健康が大切なことは分かっているが、忙しい生活の現実の中で健康行動をとることは容易なことではない。その人の日常生活が健康を守り育むことに繋がっていればよいが、無意識に逆の結果を招くこともある。</p> <p>本科目では成人の健康行動の実態と健康問題の現状を理解し、生活の中で自分の状況や立場などとちょうど折り合いをつけ、自分の持つ能力を信じ柔軟に調整できる力を獲得できるアプローチ方法を学ぶ。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指 導 方 法	
4	1. 成人期にある対象の特性や能力に応じたアプローチが理解できる	1) 成人としての自立を支える援助	(1) 健康の促進行動と阻害要因 (2) 成人期のストレスとストレスコーピング (3) 成人教育の原理 - 成人学習理論	講義 グループワーク	
6	2. 健康の保持・増進、疾病の予防に向けたアプローチが理解できる	1) 生活習慣病の予防 2) 職業性疾患の予防 3) ストレスの予防と緩和	(1) 生活習慣病の指標 (2) 定期健康診断結果の活用 - 本人の認識への働きかけの工夫 (1) 適切な作業環境と労働条件 (2) 職業性疾患のアセスメントと対処 (1) ストレス状況と要因のアセスメント (2) ストレスの緩和、解決方法	講義 グループワーク	
4	3. 事例を通して健康の保持・増進、疾病予防のアプローチの実際が理解できる	1) 健康の保持・増進、疾病予防のアプローチの実際	演習 ◇ 仕事のストレスで飲酒量が多く、肝機能障害を指摘。普段の不規則な生活の見直しとストレスコントロールが必要と指導を受けた。 ◇ メタボリックシンドロームと診断を受け、食生活の見直しと運動をするように指導を受けた。	演習	
14	4. 地域の成人の健康阻害要因の実態を知り、健康問題への取り組みの実際が理解できる	1) 地域における成人の健康の保持増進、疾病の予防に向けた取り組み	(1) 健康生活における健康阻害要因の実態調査 (2) 地域における成人の健康問題 (3) 健康の保持増進に向けた取り組みの実際 (4) 疾病予防に向けた取り組みの実際	演習 地域へ健康調査に行く	
2	試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 厚生指針増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院				
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況				

授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅱ 「周手術期にある成人 の看護」	担当講師	小椋貴文・衣川真智子 吉野洋子
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>周術期は、対象者が手術療法により受けた侵襲から順調に身体回復する過程をサポートする。本科目では、成人が手術療法を受けることによる生活への影響を捉え、術前・術中・術後の看護の重要性と早期回復の促進に向けた援助を学ぶ。現代は、入院期間が短く、多職種との連携を図りチームで対象者をサポートすることが求められている。</p> <p>身体侵襲を伴うケアは臨地実習で体験できる機会が限られているため、本科目では特に事例学習の充実を図る。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 手術を受ける患者・家族の特徴が理解できる	1) 手術を受ける患者と家族 2) 手術への手続き；主体的な治療参加への支援	(1) 手術決定から退院までの経過の概要 (2) 患者と家族の身体と心理 －身体的変化 －不安・葛藤、自尊心の低下 生命への危機感 等々 (1) インフォームドコンセント －看護師の役割 看護の立場での IC (2) 不安・ボディイメージの変化の受容への支援 (3) 全身状態をととのえる (4) 手術に向けた指導的支援 －術前オリエンテーション	講義 演習	
4	2. 術前の看護が理解できる	1) 全身状態の把握と術後合併症のリスクアセスメント 2) 直前の援助 3) 入室時の看護	(1) 身体・心理的情報とその評価 (2) 栄養状態を整える (3) 呼吸・循環を整える (4) 術前訪問－手術室との連携 (1) 手術前日の準備 ① 心理状態と受け入れの状態 ② 家族の支援状況 ③ 身体的準備－絶食・膈処置・下剤投与等々 (2) 手術当日の援助 ① 手術室入室の準備 ② 手術室への引き継ぎ ③ 安全と不安緩和	講義 グループワーク 演習	
4	3. 術中の看護が理解できる	1) 安全な手術に向けた環境管理 2) 麻酔導入時の看護	(1)手術室の環境管理 (1)麻酔導入時の看護 ① 手術体位とその影響－固定法 ② 麻酔導入の介助	講義 グループワーク	

6	4. 術後の看護が理解できる	<p>3) 術中の安全管理</p> <p>4) 手術室から病棟への引継ぎ</p> <p>1) 外科的侵襲から回復期の生体反応</p> <p>2) 術後疼痛管理</p> <p>3) 術後合併症の予防</p> <p>4) 早期回復促進への援助</p> <p>5) 術後の生活指導</p>	<p>(1) 安全管理－生体反応の把握 術中出血 感染防止</p> <p>(2) 看護師の役割分担－チームの組み方と各役割</p> <p>(1)手術室と病棟の継続看護</p> <p>(1) 手術侵襲に対する生体反応</p> <p>(2) 看護の展開過程</p> <p>(1) 創傷治癒過程</p> <p>(2) 疼痛と主な治療法</p> <p>(1) 周手術期の全身性の反応</p> <p>① 呼吸</p> <p>② 循環</p> <p>③ 消化器官－腸蠕動</p> <p>④ 骨格筋</p> <p>(2) 術後合併症の予防と発症時の看護</p> <p>(1) 早期回復に向けた日常生活援助</p> <p>① 体位変換・清潔・排泄</p> <p>② チューブ類の取り扱い</p> <p>③ 環境を整える－安眠・時間感覚の取り戻し</p> <p>④ 食事の開始と進め方</p> <p>(2) 日常生活再構築に向けた援助</p>	講義 演習
10	5. 事例を通して周術期の看護の実際が理解できる	1) 周術期の看護展開	(1) 事例演習 大腸がんの手術を受け、ストーマ造設となった男性 ・ストーマ造設を受ける患者の看護 ・障害受容過程と看護 ・社会復帰に向けた看護	演習
2	試験			
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院</p> <p>西崎統 村田満編集 看護に活かす検査値の読み方・考え方 第2版 総合医学社</p>			
参考文献	<p>竹内登美子編 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第3版 医歯薬出版株式会社</p> <p>竹内登美子編 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版株式会社</p> <p>ナーシンググラフィカ 周術期看護 成人看護学④ メディカ出版</p>			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅲ 「健康の危機状況に ある成人の看護」	担当講師	小椋貴文・赤石奈々 長島愛美・丸山美和子 谷垣奈津子
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>急激に健康の破綻をきたしたとき、成人期にある人はどのような身体・心理反応を示すか。本科目では生命の危機状態にあるときの生体の反応・心理的反応を捉え、緊急・治療時の看護を学ぶ。さらに、急性期を脱しとときの回復過程に合わせた日常生活自立への支援について学ぶこととする。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. クリティカルケアを必要とする人の状態と看護の概要が理解できる	1) クリティカルケアを必要とする患者と家族の特徴 2) クリティカルケアを必要とする患者のアセスメントと看護	(1) 健康の急激な破たん ① 事故・外傷・中毒 ② 慢性疾患・がんの急性転化 ③ 急性疾患 (2) 患者の特徴と問題点 事例；外傷（骨盤骨折） ① アセスメントの方法 ② 系統別アセスメントの実際 ③ 治療に伴う看護 ④ 緊急手術への準備 ⑤ 合併症予防 ⑥ 患者・家族の不安の緩和	講義 グループワーク	
6	2. 救命救急時の看護が理解できる	1) 救急患者の観察とアセスメント 2) 呼吸管理・体液循環管理 3) 主要病態に対する救急処置と看護 4) 心理的支援	(1) 全身の観察とアセスメント (2) 緊急検査 (3) 各機能の観察とアセスメント ①呼吸器系 ②循環器系 (1) 呼吸管理とは－①と②の組合せ ① 気道の確保 ② 酸素療法 ③ 人工呼吸器による呼吸管理 (2) 循環系・腎機能の管理の意義 ① 中心静脈圧 ② 体液バランスと循環系のモニタリング ③ 輸液の管理 (1) 心肺停止状態への対応 ① 一次救命処置 ② 二次救命処置 (2) ショック・循環障害への対応 (3) 体温異常への対応：熱中症 (4) 外傷への対応 (5) 熱傷への対応 (6) 中毒への対応 (7) 重症感染症への対応 (1) 心理的危機状態の特徴 (2) 危機状態に応じた援助 (3) 家族のニーズと援助	講義 グループワーク 講義 演習	
4	3. 重症集中治療管理	1) 集中治療室管理	(1) 集中治療室(ICU)の特徴と安全	講義	

	における看護の役割が理解できる		管理—ICU・HCU・CCU・SCU (2) 集中治療室での看護の役割 —優先される治療と患者のQOL	グループワーク
	4. クリティカルケア実践における倫理について理解できる	1) クリティカルケア看護と倫理	(1)生命の尊厳と権利擁護 ③ 患者の身体拘束 ④ インフォームドコンセント ⑤ 意思決定を支える ⑥ 真実を伝えることの意義	
	5. クリティカルケアにおけるチームの連携について理解できる	1) クリティカルケアとチーム医療	(1) クリティカルケアとチーム医療の特殊性 (2) クリティカルケアにおける他職種との連携	講義 グループワーク
	6. クリティカルケアにおける看護の役割が理解できる	1) クリティカルケアにおける看護の専門性	(1) クリティカルケアに求められる看護師の能力 (2) 集中ケア認定看護師と急性・重症患者看護専門看護師	
6	7. 重篤な身体侵襲を伴う治療別の看護が理解できる	1) 化学療法時の看護 2) 放射線治療時の看護	(1) 全身機能・骨髄抑制のアセスメントと対処 (2) 抗癌薬投与時の管理とケア (3) 心身・日常生活への援助 (1) 骨髄抑制と全身機能のアセスメント (2) 照射法と被爆防御 (3) 放射線治療時の管理とケア (4) 心身・日常生活への援助 *看護展開—事例を使って考える 乳がんで手術療法を受けた後、化学療法・放射線療法を受ける成人の女性	講義 演習 グループワーク
8	8. 健康危機状態から回復過程へセルフケア獲得までの看護の実際を理解する	1) 健康危機状態からセルフケア再獲得までの看護	事例演習 心筋梗塞でカテーテル治療を受けた成人の男性 ・循環器系フィジカルアセスメント ・心電図モニターの読み取りと装着 ・心臓リハビリテーション	演習
2	試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院 山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック第2版 医学書院 西崎統 村田満編集 看護に活かす検査値の読み方・考え方 第2版 総合医学社			
参考文献	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア 医学書院 荒尾晴恵・田墨恵子編集 スキルアップ がん化学療法看護 事例から学ぶセルフケアの実際 日本看護協会出版			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 学習の取り組み状況			

授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅳ 「慢性的な健康障害をもつ 成人の看護」	担当講師	杉垣ひとみ 藤岡 由依
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい

本科目では、成人期の生活習慣によりに密かに進行する慢性疾患に焦点をあて、「病気」とわかった時から、生涯にわたり疾病をコントロールするためのセルフケア行動形成・維持と社会的支援獲得の学習支援を中心に学ぶ。また、現代における慢性疾患の動向を捉え、糖尿病の事例を通して社会的役割が大きい成人が病と共に生きることの困難さを理解した支援を具体的に学ぶこととする。

時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法
4	1. 慢性病を持つ対象の特徴が理解できる	1) 慢性的な経過をたどる対象の特徴 2) 病と共に生きる患者と家族	(1) 慢性病の経過 (2) 慢性病を持つ対象の特徴 (1) 慢性病を持つ人の心理 (2) 病みの軌跡 (3) 首尾一貫感覚、健康信念モデル、コントロールの所在	講義 グループワーク
8	2. 慢性病と共に生活することを支える看護について理解できる	1) 慢性病をもつ人への看護	(1) 慢性病と共に生きる人を支える看護の目的 (2) 慢性病との共存を支える看護の方法 (3) エンパワーメント エンパワメント・エデュケーション (4)セルフケアとセルフマネジメント (5) セルフマネジメント教育 ① セルフマネジメントの概念 ② コンプライアンスを高めるための知識と技術 ③ 自己効力を高める技術	講義 グループワーク
4	4. 社会的支援獲得への援助が理解できる	1) 社会的支援獲得への援助	(1) 家族・患者会への支援 (2) 難病医療費助成制度	講義
12	5. セルフケア行動形成・維持に向けた支援の実践が理解できる	1) 慢性的な健康障害を持つ成人の看護展開	事例演習 糖尿病を指摘されていた成人男性が血糖コントロール不良で入院。生活の見直しが必要。 ・糖尿病患者の看護 ・エンパワーメント支援 ・セルフマネジメント支援 ・症状マネジメント支援 ・簡易血糖測定の方法	演習
2	試験			

テキスト
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院
高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版 学研ゲイム秀潤社
村田満 西崎統編集 看護に活かす検査値の読み方・考え方 第2版 総合医学社

参考文献	安酸史子著 第2版 糖尿病患者のセルフマネジメント教育—エンパワメント自己効力 メディカ出版 黒江ゆり子他訳 慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル 医学書院 K.ローリッグ著・近藤訳 病気とともに生きる—慢性疾患のセルフマネジメント 日本看護協会出版会 松本千明著 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 医歯薬出版株式会社
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況

授 業 概 要

分 野	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護援助論Ⅴ 「終末期にある成人 の看護」	担当講師	大村純子 小浜真利子 杉垣ひとみ
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p>科目設定のねらい</p> <p>成人期における死因の第1位は悪性新生物であり、医療がどれだけ進歩しても依然として「がん」による死亡率は高い。人生真ただ中の時期にがんと診断され、近い将来、死に直面せざるを得ないことを認めることは非常に辛く、苦しい出来事である。傍にいる家族もまた同じである。このような対象者に向き合うとき、看護者は心が揺らぎ、自己の看護観と共に根底にある死生観を考えざるを得なくなる。本科目では、特に終末期における人としての「痛み」に焦点をあて、人生の最期の時を支える看護について学ぶものである。</p>					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
4	1. 終末期の特徴と看護の目的が理解できる	1) 終末期の概念と終末期医療 2) 終末期看護の目的	(1) 終末期とは (2) 終末期医療における3つの概念－ターミナルケア ホスピスケア 緩和ケア (3) 緩和ケアの考え方 ① わが国の緩和ケアの現状 ② 医療におけるコミュニケーション ③ 緩和ケアをめぐる倫理的課題 (4) 死へのプロセス (1) 終末期看護の目的	講義 演習	
2	2. 全人的苦痛が理解できる	1) 終末期にある対象の理解	(1) 全人的苦痛の理解 －人間にとって死とは 全人的苦痛の概念 死を予期しながら生きる	講義 グループワーク	
4	3. 身体的苦痛のマネジメントが理解できる。	1) 症状緩和の考え方 2) 症状マネジメントとケア	(1) 症状緩和の考え方と実践 ① 身体症状の特徴 ② 症状マネジメントモデル (1) 主要な身体症状マネジメントとケア ① がん性疼痛－痛みの定義とアセスメント ② 各種症状－定義とアセスメント ③ 身体的ケア	講義 グループワーク	
	4. 日常生活を支える援助が理解できる	1) 日常生活を支える援助	(1) 日常生活を支える援助		
6	5. 死の受容過程の理解と精神的ケアが理解できる	1) 精神的ケアとスピリチュアルケア	(1) 精神的ケアとは ① 死の受容過程とケア ② 看護者の心の揺らぎ (2) コミュニケーションの力 (3) 危機介入－危機理論の活用 (4) 主な精神症状の治療とケア (5) スピリチュアルペインとケア	講義 グループワーク 演習	

シラバス

専門分野Ⅱ 1. 成人看護学 6) 成人看護援助論Ⅴ (2)

4	5. 社会的ケアについて理解できる	1) 社会的ケア	(6)臨死期のケア (1) 社会的苦痛のとらえ方とアプローチ (2) 人生の最期に携わる看護者としての姿勢 －看護者の死生観 (3) 家族ケア －家族ケアのあり方と援助 グリーフケア	講義 グループワーク
2	6. 緩和ケア病棟の役割が理解できる	1) 緩和ケア病棟でのケア	(1) 緩和ケア病棟の役割 (2) 緩和ケア病棟でのケアの実際 ① 看護師の役割 ② チーム医療 ③ ケアの実際	講義
6	7. 事例を通して終末期にある対象者への看護援助の実際が理解できる	1) 終末期にある対象者への看護援助	事例 乳がん再発、多臓器転移のある成人女性 ・日常生活を整える援助 ・患者の潜在的能力を強める援助 (安楽に向けた看護技術) ・看取りの援助	演習
2	試験			
テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 竹尾恵子監修 第3版 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社 高木永子監修 第5版 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 学研メディカル秀潤社			
参考文献	川島みどり編 触れる・癒やす・あいだをつなぐ手 TE-ARTE 学入門 看護の科学社 岡本佐智子著 根拠がわかる看護マッサージ 患者を癒すリラクゼーション技術 中央法規 小澤竹俊著 死を前にした人にあなたは何かができますか？ 医学書院 柏木哲夫監修 ナースのためのホスピスケアマニュアル 金原出版株式会社 谷川俊太郎詩 岡本よしろう絵 生きる 福音館書店 秋元康総合プロデュース 象の背中・旅立つ日・DVD 光文社 湯本香樹実ぶん 酒井駒子え くまとやまねこ 河出書房新社			
評価方法	出席時間 筆記試験 レポート 授業の取り組み状況			